

2025年度「専門特殊研究」研究会一覧

文 学 学 術 院

2025年度実施の専門特殊研究会は以下のとおりです。

「科目登録の手引き」も確認してください。

なお、本内容はWebシラバスには掲載されていないので、ご承知おきください。

【専門特殊研究について】

高度な原典購読や資料解読、数理系の問題演習など、少人数による上級者向けの研究会での成果を、学部での履修単位として認定するための科目です。

<履修について>

- 1科目2単位とし、合計8単位を上限に卒業必要単位に算入されます。
- 年間における登録制限単位数、科目数には算入しません。
- 同一の学期に2研究会（4単位）までの単位認定が可能です。
- 入学後2学期目から卒業見込み学期の前学期まで履修することができます。
- 本研究会は科目登録の結果通知には反映されません。

<成績について>

- 学期終了後、一定の条件を満たした研究会において、十分な成果を収めた学生についてのみ、単位の認定を行います。
- 評価は次学期の初めに行われ、実際に参加した次の学期の単位となります。
- 合格の場合、成績証明書には、「専門特殊研究（主題・担当教員名） 配当年度 配当学期」と記載します。

★各研究会の内容に関するお問い合わせは、以下の担当教員まで直接お問い合わせください。

（以下、学期・曜日・時限・主題名五十音順）

春学期

月

3時限

実施曜日・時限
の特記事項

参加可能年次

2年以上

主題

中世アラビア語原典史料講読1

担当教員

五十嵐 大介

研究概要

本授業は、中世のアラビア語の原典史料（年代記、人名録、地誌、寄進文書など）の講読を通じて、マムルーク朝時代（1250-1517年）の中東・アラブ地域の歴史研究の作法を学ぶものである。史料の読み解き方を習得するとともに、それがマムルーク朝史の既存の研究成果とどのようにかかわっているのか学んでいく。単なるアラビア語の授業ではなく、この時代の原典史料に特有な性格（記述のスタイルや含まれる内容）を把握し、歴史研究のための史料として読み解いていくことを目的とする。受講生には中級以上（初級文法を一通り習得し、辞書を引ながら文章が読めるレベル）のアラビア語の知識に加え、イスラームや中世アラブ史、マムルーク朝史についての知識と、それを深めていこうという熱意が求められる。

使用文献

イブン・タグリービルディー『時代の出来事Hawadith al-duhur』、マクリーズィー『エジプト地誌Khitat』など。
受講者と相談の上決定します。

活動記録の内容、提出方法

平常点により評価する。

受講者選考方法

備考

受講を希望する場合は初回の授業に必ず出席してください。アラビア語の学習状況や中世アラブ史についての知識や取り組みについて問う面談を経て、受講の可否を決定します。【初回授業】2025年4月14日（月）3時限目、39号館3階2321中東・イスラーム研究コース室

春学期**月****3時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**
2年以上**主題**
アラビア語原典講読**担当教員**
岡 真理

研究概要

アラビア語で書かれた現代小説を講読します。文学テキストの精読を通して、母音符号のふっていない現代アラビア語テキストの読解に慣れ親しむと同時に、作品の結構やナラティブ、語彙の選択等、作品の「表現」のありようにも逐一こだわりながら、作品に込められた作者の思想やメッセージを析出します。また、すでに日本語訳ないし英訳のある作品をテキストとすることで、文学的な翻訳のあり方についても検討し、アラビア語、日本語その他の言語における表現の差異などにも目配りしつつ、現代中東・イスラーム世界を《文学》という地平から多面的に理解します。

使用文献

参加者と相談の上、できるだけ参加者の関心に添うテキストを選びたいと思います。

活動記録の内容、提出方法

参加者は毎回、一定の分量を予習し、授業では、適当な分量を音読した上で、自身が準備してきた日本語訳とその文学的解釈を提示します。また、適宜、作品に関連してレポートなどを課すこともあります。毎回の授業および課題への取り組み姿勢で評価します。

受講者選考方法

選考はとくに考えていません。アラビア語初級の単位を修得済みか、アラビア語基礎文法を学習し、現代アラブ小説の原典講読に取り組みたい方であれば、どなたでも参加できます。参加希望者は、事前に、mari.oka@waseda.jp まで、その旨、ご連絡ください。

備考

*ひとまず月3に実施としていますが、参加者僅少で、月3が都合の悪い場合は、実施曜日・時限の変更も検討可能です。参加を希望される方は、とりあえず、その旨、ご連絡ください。

春学期**木****5時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**
2年以上**主題**
和歌テキスト原典講読1(新古今研究会)**担当教員**
兼築 信行

研究概要

和歌に関わるテキストを輪読形式で読解する。何を取り扱うかは、参加者で相談のうえ決定するが、2024年度春学期は三体和歌を輪読した。撰集、家集、定数歌、歌合、歌学書など、対象は和歌に関係のあるテキストであれば、とくに限定しないが、中古～中世(平安～室町時代)のテキストから選びたい。和歌を読解するために必要なスキル、データベースの使い方など、初歩から手ほどきをするので、まったくの初学者でも心配はいらない。最終的には、和歌に関するテキストを注釈できるレベルに到達することを目指す。また、個々の作品の読解のみに終始するのではなく、和歌についての議論や、前近代の和歌の作り方に擬えて、実際に短歌を創作・発表する活動も、余裕があれば行いたい。

使用文献

テキストはすべてプリントで配布する。

活動記録の内容、提出方法

毎週、輪読を行う。成績評価を受けるためには、1回以上の発表を必須とする。なお質疑や意見表明など、議論への参加状況も加味する。

受講者選考方法

担当教員宛メールで申し込むこと(knck@waseda.jp)。申し込みの際には、和歌についてどのような関心があるのかを、端的に記して欲しい。原則として受講を拒絶することはない。

備考

大学院生や、他学部、他大学の学生も参加するので、承知されたい。なお開始、終了時刻は、参加者と相談のうえ、調整することもあり得る。

春学期**金****6時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**
2年以上**主題**
自然科学的文化研究の最前線**担当教員**
田中 雅史**研究概要**

文化の伝達プロセスや成果物、また文化の評価を対象とした自然科学的研究が近年飛躍的に進んでいるが、文理をまたぐ複合領域であることもあり、文学学術院の専門的教育を受けているだけではその研究成果の十分な理解・評価はしばしば困難である。本研究会では、科学的な文化研究に関連する最新文献を取り上げ、その理解に必要なサイエンスの基礎知識の習得を進めるとともに、適宜受講者自らが実施している研究を紹介したりして、文理融合の観点から文化研究を理解して自ら実施するための応用的素養を身に着けることを目的とする。

使用文献

最新の科学的文化研究の成果を掲載した主に英語の論文や書籍を適宜取り上げる予定です。取り上げる論文は原則として早稲田図書館契約対象で、書籍も早稲田図書館で利用できるものとし、受講者が文献を購入する必要はありません。

活動記録の内容、提出方法

毎回取り上げる題材について、文献理解度、また独創的な着想、関連する問題提起や、各自の研究紹介などによる授業への貢献を総合的に評価します。各自の授業への貢献をまとめた資料をもって活動報告とします。

受講者選考方法

受講を検討している方は事前に担当教員(masashitanaka@waseda.jp)まで、文化研究・心理学・自然科学の予備知識や英語論文を読んだ経験などを記載してお問い合わせください。メールか面接で、授業を受けるために十分な基礎知識・経験があることを確認できれば受講を認めます。

備考

本授業では、大学院進学や文化研究・活動など、この授業で学んだことを将来の学術・社会に直接的に活用したい方を優先的に対象とします。開講時間は受講者の都合で適宜変更する可能性があります。

秋学期**月****5時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**
2年以上**主題**
スペイン語原典講読：20世紀のラテンアメリカ文学**担当教員**
アスアヘアラモ マヌエル**研究概要**

本講義は、いわゆる「ラテンアメリカ文学ブーム」の代表者による短編小説と長編小説の抜粋を読むことによって、1960年代以降のラテンアメリカ文学の特徴の理解を深めることを目的とします。スペイン語原文でこれらの作品を読むことによって当時の時代背景や文壇の流れについて把握します。履修者の興味・関心と研究領域に寄り添う形で、主に、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、ガブリエル・ガルシア＝マルケス、マリオ＝バルガス＝ジョサ、プリオ＝コルタル、カルロス＝フエンテスなどの作品をスペイン語で読みます。

使用文献

Gabriel García Márquez. "Todos los cuentos." De Bolsillo (2013/6/1)、その他配布資料による

活動記録の内容、提出方法

試験:0% 特になし 試読: 35% 読んだ作品やエッセイのうち、一つを選び一部分を日本語に訳し、解釈を付する。平常点評価:35% 授業参加や、受講生のプレゼン内容確認の質問への応答。その他:30% プレゼンテーション: 自分の関心または研究領域に結びつけた形で使用文献について短い発表をする。

受講者選考方法

原典をスペイン語で読むため、上級のスペイン語能力を要します。そのため、選考方法として9月23日から10月4日の間に受講希望者と個別面談を行います。受講希望の方は、10月2日までに担当教員のメールアドレス(mazua@waseda.jp)にご連絡ください。

備考

作品をめぐるディスカッションは履修者のレベルに合わせる形で日本語またはスペイン語で行います。

秋学期**火****2 4時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**
2年以上**主題**
中世アラビア語原典史料講読2**担当教員**
五十嵐 大介

研究概要

本授業は、中世のアラビア語の原典史料(年代記、人名録、地誌、寄進文書など)の講読を通じて、マムルーク朝時代(1250-1517年)の中東・アラブ地域の歴史研究の作法を学ぶものである。史料の読み解き方を習得するとともに、それがマムルーク朝史の既存の研究成果とどのようにかかわっているのか学んでいく。単なるアラビア語の授業ではなく、この時代の原典史料に特有な性格(記述のスタイルや含まれる内容)を把握し、歴史研究のための史料として読み解いていくことを目的とする。受講生には中級以上(初級文法を一通り習得し、辞書を引きながら文章が読めるレベル)のアラビア語の知識に加え、イスラームや中世アラブ史、マムルーク朝史についての知識と、それを深めていこうという熱意が求められる。

使用文献

マクリーズィー『諸王朝の知識の旅Suluk』、イブン・イヤース『花々の驚異Bada'i al-zuhur』など。受講生と相談の上決定いたします。

活動記録の内容、提出方法

平常点により評価する。

受講者選考方法

受講を希望する場合は初回の授業に必ず出席してください。アラビア語の学習状況や中世アラブ史についての知識や取り組みについて問う面談を経て、受講の可否を決定します。【初回授業】2025年10月7日(火) 2 4時限目、39号館3階2321中東・イスラーム研究コース室

備考

秋学期**水****2時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**
1年以上**主題**
アラビア語原典講読**担当教員**
岡 真理

研究概要

アラビア語で書かれた現代小説を講読します。文学テキストの精読を通して、母音符号のふっていない現代アラビア語テキストの読解に慣れ親しむと同時に、作品の結構やナラティヴ、語彙の選択等、作品の「表現」のありようにも逐一こだわりながら、作品に込められた作者の思想やメッセージを析出します。また、すでに日本語訳ないし英訳のある作品をテキストとすることで、文学的な翻訳のあり方についても検討し、アラビア語、日本語その他の言語における表現の差異などにも目配りしつつ、現代中東・イスラーム世界を《文学》という地平から多面的に理解します。

使用文献

参加者と相談の上、できるだけ参加者の関心に添うテキストを選びたいと思います。

活動記録の内容、提出方法

参加者は毎回、一定の分量を予習し、授業では、適当な分量を音読した上で、自身が準備してきた日本語訳とその文学的解釈を提示します。また、適宜、作品に関連してレポートなどを課すこともあります。毎回の授業および課題への取り組み姿勢で評価します。

受講者選考方法

選考はとくに考えていません。アラビア語初級を履修しているか、アラビア語基礎文法を学習し、現代アラブ小説の原典講読に取り組みたい方であれば、どんなでも参加できます。参加希望者は、事前に、mari.oka@waseda.jp まで、その旨、ご連絡ください。

備考

*ひとまず水2に実施としていますが、参加者僅少で、水2が都合の悪い場合は、実施曜日・時限の変更も検討可能です。参加を希望される方は、とりあえず、その旨、ご連絡ください。

秋学期**木****5時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

1年以上

主題

和歌テキスト原典講読2(新古今研究会)

担当教員

兼築 信行

研究概要

和歌に関わるテキストを輪読形式で読解する。何を取り扱うかは、参加者で相談のうえ決定するが、2024年度秋学期は赤染衛門集を輪読した。撰集、家集、定数歌、歌合、歌学書など、対象は和歌に関係のあるテキストであれば、とくに限定しないが、中古～中世(平安～室町時代)のテキストから選びたい。和歌を読解するために必要なスキル、データベースの使い方など、初歩から手ほどきをするので、まったくの初学者でも心配はいらない。最終的には、和歌に関するテキストを注釈できるレベルに到達することを目指す。また、個々の作品の読解のみに終始するのではなく、和歌についての議論や、前近代の和歌の作り方について、実際に短歌を創作・発表する活動も、余裕があれば行いたい。

使用文献

テキストはすべてプリントで配布する。

活動記録の内容、提出方法

毎週、輪読を行う。成績評価を受けるためには、1回以上の発表を必須とする。なお質疑や意見表明など、議論への参加状況も加味する。

受講者選考方法

担当教員宛メールで申し込むこと(knck@waseda.jp)。申し込みの際には、和歌についてどのような関心があるのかを、端的に記して欲しい。原則として受講を拒絶することはない。

備考

大学院生や、他学部、他大学の学生も参加するので、承知されたい。なお開始、終了時刻は、参加者と相談のうえ、調整することもあり得る。

秋学期**金****6時限****実施曜日・時限
の特記事項****参加可能年次**

2年以上

主題

自然科学的文化研究の実践的理解

担当教員

田中 雅史

研究概要

文化の伝達プロセスや成果物、また文化の評価を対象とした自然科学的研究が近年飛躍的に進んでいるが、文理をまたぐ複合領域であることもあり、文学・学術院の専門的教育を受けているだけではその研究成果の十分な理解・評価はしばしば困難である。本研究会では、春学期「自然科学的文化研究の最前線」で身に着けた基礎知識も前提としつつ、科学的な文化研究に関連する最新文献を取り上げ、プログラミングを駆使して文化的データを対象とした分析やシミュレーションなども行ったりして、文理融合の観点から文化研究を理解して自ら実施するための応用的素養を身に着けることを目的とする。

使用文献

最新の科学的文化研究の成果を掲載した主に英語の論文や書籍を適宜取り上げる予定です。取り上げる論文は原則として早稲田図書館契約対象で、書籍も早稲田図書館で利用できるものとし、受講者が文献を購入する必要はありません。

活動記録の内容、提出方法

毎回取り上げる題材について、文献理解度、また独創的な着想、関連する問題提起や、プログラミングなどによる授業への貢献を総合的に評価します。各自の授業への貢献をまとめた資料をもって活動報告とします。

受講者選考方法

受講を検討している方は事前に担当教員(masashitanaka@waseda.jp)まで、文化研究・心理学・自然科学の予備知識や英語論文を読んだ経験などを記載してお問い合わせください。メールか面接で、授業を受けるために十分な基礎知識・経験があることを確認できれば受講を認めます。

備考

春学期「自然科学的文化研究の最前線」の受講が望ましいですが、必須ではありません。大学院進学や文化研究・活動など、この授業で学んだことを将来の学術・社会に直接的に活用したい方を優先的に対象とします。開講時間は受講者の都合で適宜変更する可能性があります。

以上